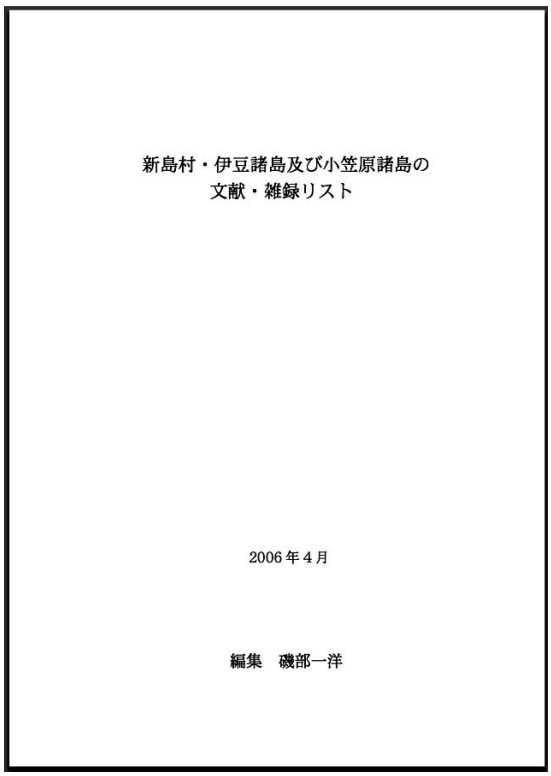
地質ニュース623号，65－68頁，2006年7月
Chishitsu News no.623, p.65－68, July, 2006

地方博物館への研究協力
－地域に関連した文献リスト出版－

磯部　一洋[1)]・宮城　磯治[2)]

1. はじめに

全国各地に個性的な博物館が数多く設立されているが，人口わずか3,000人の小さな東京都新島村に，村立の博物館が1998年7月に新設された．既に磯部（1998）・須藤ほか（2003）によって，新島村博物館における展示内容と砂展の開催について詳しく紹介されている．このような地方博物館の活動には，地域の自然や人文・社会に関する文献目録の整備が必要不可欠である．著者の一人磯部は当館の館外研究協力委員として，1960年代後半から2006年2月までに収集・確認してきた地域全体に関する大量の文献・雑録を編集し，「新島村・伊豆諸島及び小笠原諸島の文献・雑録リスト」と題する冊子を2006年4月10日に自費出版した．A4版，181頁の本誌（第1図）には，6,500件以上もの文献・雑録が収録されている．


新島村・伊豆諸島及び小笠原諸島の
文献・雑録リスト

2006年4月

編集　磯部一洋

第1図　最近出版された「新島村・伊豆諸島及び小笠原諸島の文献・雑録リスト」の表紙．

開館7周年に当たる平成16年度新島村博物館年報（2006年3月31日発行）と一緒に，本誌約300部が東京都を中心とした教育・文化関連機関や個人へ送付され，他に類を見ない目録であるとの評価を既に頂戴している．しかし，発行部数に限りがあり，送付希望に沿えない恐れも出てきた．

著者の一人宮城は，三宅島2000年噴火の地質調査研究に参加し，自身のホームページで伊豆諸島全体のコーナーを設けている．その中に，本誌に係わる文献ページを追加し，閲覧や印刷も可能となった．

以下では，本誌と宮城のホームページについて紹介する．

2. 本誌の編集と説明

（1）文献・雑録の収集と確認作業

磯部は伊豆諸島の北部に位置する新島の地質文献収集を，前浜・間々下浦海岸の地形変化に関する卒業論文作成時の1960年代後半に開始した．その後，収集範囲を近隣の島々から伊豆諸島全体，さらに小笠原諸島まで拡大し，産業技術総合研究所に在職中であった2006年2月まで収集・確認作業を継続した．まず正本（別刷を含む）の購入・入手に努めるとともに，多数の文献を著作権法の範囲内で複写した．一方，古い文献等で複写困難なものは図書館内での閲覧に留めた．

1）元職員 新島村博物館館外研究協力委員
2）産総研 深部地質環境研究センター

キーワード：東京都新島村，伊豆諸島，小笠原諸島，新島村博物館，研究協力

3．新島村（新島・式根島）
11（噴火・地質・地形）……2
12（自然災害・地震・津波）……3
13（海岸・砂丘）……4
14（海洋・海底地質）……5
15（陸水・温泉）……5
16（気象・気候）……6
17（陸上植物）……6
18（動物・水中生物）……7
19（地下資源・石材）……8
22（人類学・考古）……9
23（歴史）……9
24（教育・文化財）……10
25（企画行政・産業経済）……11
26（民俗・生活・回顧録）……13
27（人文地理・地図）……15
28（旅行案内）……15
29（編纂書・特集号）……16

第2図　新島村における各分野と掲載頁.

また，収集分野も地球科学から自然科学全般，人文科学へと拡大させた．しかし，人文・社会関係については，鈴木（1981, 1982）等を参照してその増大に努めてきたが収集対象が大き過ぎ，一部の文献収集に終わっている．さらに，誌上発表による文献を優先的に収集したため，口頭・ポスター発表の収録漏れが多く，今後に残された課題も数多い．文献数は時間の経過とともに増加し続けるため，本誌はあくまでも編集時点における暫定版に過ぎない．

(2) 文献・雑録の分類

文献・雑録は以下に述べる整理番号ごとに，著（編）者，表題，雑誌・所載書籍（総頁），巻（号／通号），頁の順に掲載され，科学論文スタイルの横書きに統一されている．英文による一部の文献については，一般の利用者にも便利な和文の表題・掲載誌名に変更してある．

文献・雑録の先頭には，2個のハイフンで連結された7-8桁の整理番号が付されている（第3・4図参照）．前の2桁は地域・分野を表わす．10・20番台は新島村（新島・式根島），30・40番台は北部伊豆諸島（大島～新島～神津島），50・60番台は南部伊豆諸島（三宅島～八丈島～鳥島），70・80番台は伊豆諸島（北部・南部を含む）及び小笠原諸島に係わることを示す．

奇数10番台（例えば10, 30, 50, 70）は自然科学関係を対象とする（第2図）．

1桁目の1は噴火・地質・地形，2は自然災害・地震・津波，3は海岸・砂丘，4は海洋・海底地質，5は陸水・温泉，6は気象・気候，7は陸上植物，8は動物・水中生物，9は地下資源・石材を表わす．一方偶数10番台（例えば20, 40, 60. 80）は人文・社会関係を主な対象とする．1桁目の2は人類学・考古，3は歴史，4は教育・文化財，5は企画行政・産業経済，6は民俗・生活・回顧録，7は人文地理・地図，8は旅行案内，9は編纂書・特集号（自然科学関係が多い）を表わす（1は欠番）．

(3) 発行年と閲覧機関名

整理番号中間の2-3桁は発行年（西暦）を表わす．800番台は19世紀の1899年まで，00番台は20世紀の1999年まで，000番台は今世紀の2000年以降を示す．江戸時代の発行年については，江戸のみとした．

整理番号後の2桁は，同一年における発行順ないし通し頁順に付した番号であり，発行年月の未確認・不詳のものについてはより後位置とした．

さらに整理番号末尾の小文字のアルファベットを説明する．aは磯部による正本所持，b～zは正本を閲覧した機関名等を示す．

a：正本所持
b：産業技術総合研究所つくば第7図書室
c：東京都立中央図書館
d：国立国会図書館
e：筑波大学中央図書館
f：森林総合研究所図書室他
g：新島村本村住民センター図書室
h：新島村博物館
i：東京都立新島高等学校図書室
s：神津小学校鈴木文庫［鈴木（1981, 1982）を中心に所蔵，一部閲覧］
t：茨城県つくば市立中央図書館茎崎図書室
u：牛久市立中央図書館
v：牛久自然観察の森
z：その他

第1表　地域・分野別収録数の一覧表．①-⑤は地域ごとの収録数上位順．

分野/地域	新島村	北部伊豆諸島	南部伊豆諸島	伊豆諸島・小笠原諸島	全地域合計
噴火・地質・地形	④54	②348	①319	②462	①1,183
自然災害・地震・津波	23	①389	④175	③330	②917
海岸・砂丘	24	3	4	19	50
海洋・海底地質	5	③191	109	①464	③769
陸水・温泉	22	30	29	27	108
気象・気候	9	16	15	30	70
陸上植物	32	58	70	⑤216	376
動物・水中生物	③59	48	⑤131	④242	⑤480
地下資源・石材	10	2	3	11	26
人類学・考古	17	45	30	52	144
歴史	42	67	③192	147	448
教育・文化財	⑤47	35	70	28	180
企画行政・産業経済	②60	93	141	184	478
民俗・生活・回顧録	①94	④163	②308	173	④738
人文地理・地図	11	25	48	92	176
旅行案内	⑤47	⑤124	101	178	450
編纂書・特集号	14	25	30	185	254
全分野合計	570	1,662	1,775	2,840	6,847
自然科学関係	238(42.8)	1,085(66.3)	855(49.0)	1,801(67.8)	3,979(60.4)
人文・社会関係	318(57.2)	552(33.7)	890(51.0)	854(32.2)	2,614(39.6)
小計	556(100%)	1,637(100%)	1,745(100%)	2,655(100%)	6,593(100%)

ただし，空欄は正本の所在が不明なために未確認であることを示す．

(4) 地域・分野別収録数

新島村，北部伊豆諸島，南部伊豆諸島，伊豆諸島・小笠原諸島の4地域について，自然科学9分野，人文・社会7分野及び編纂書・特集号の合計17分野に関する収録数，全地域合計及び全分野合計を第1表に示す．

この表には，自然科学関係と人文・社会関係（編纂書・特集号を除く）の収録数（括弧内に百分率）も表現されている．

32-88-53a 小出　仁：ダイク・イントルージョンによる地殻変動について（演旨）．同上，39(6), 432-433.
32-88-54b 宮崎　務：1983年三宅島噴火開始前後になにがあったか−噴火初期の対応策を研究せよ−．火山，第2集，33(2), 99-102.
32-88-55b 国立防災科学技術センター：神津島・新島周辺の最近の地震活動．地震予知連絡会会報，40, 211-217.
32-88-56a 大木靖衛：1988年伊豆半島東方沖群発地震．神奈川県温泉地学研究所報告，20(1), 9-14.
32-88-57b 小泉岳司・福井敬一・橋本徹夫・千場充之・清野政明・里村幹夫：伊豆大島における重力変化−1985年11月〜1988年5月−．火山，第2集，33(4), 291-303.
32-89-01b 気象研究所・大島測候所・地震観測所：伊豆大島1987年11月噴火に伴う地震．火山噴火予知連絡会会報，(41), 7-8.
32-89-02b 気象研究所地震火山研究部・地震火山部地震予知情報課：伊豆大島1987年11月16日の噴火に伴うRayleigh波による面積歪の解析．同上，(41), 9-11.
32-89-03b 地質調査所：伊豆大島におけるインバール線式伸縮計による観測（1987年11月〜1988年5月）．同上，(41), 12-15.
32-89-04b 地質調査所：伊豆大島におけるドライティルト観測（1987年12月，1988年2月，5月）．同上，(41), 16-19.
32-89-05b 国土地理院：伊豆大島における測地測量（3）．同上，(41), 20-25.
32-89-06b 気象研究所：伊豆大島における重力潮汐観測（4）．同上，(41), 26-27.
32-89-07b 気象研究所：伊豆大島における重力測定．同上，(41), 28-36.

第3図　北部伊豆諸島の自然災害・地震・津波（32）のリストの一部．本誌33頁における1988年から1989年の文献．

最新噴火から1,100年以上経過した新島村では，人文・社会関係が相対的に多いのに対し，他の地域では自然科学関係の中で噴火・地質，自然災害・地震，海洋・海底地質が多い．これは他の地域で噴火や大地震が繰り返し発生することと深く関係する．すなわち，1986年に噴火した大島を含む北部伊豆諸島の噴火他（31）では，1987年に49件，さらに自然災害他（32）では1988年に最多の57件に達する（第3図）．

同様に2000年に噴火した

66-12-01b 杉田常吉：八丈島に関する伝説．地学雑誌，24(288), 845-852.
66-14-01c 佐々木　繁：八丈島の民話．郷土研究，1(11), 687-689.（は67）
66-14-02c 土居暁風：八丈島の人の始．同上，2(7), 440
66-14-03c 辻村太郎：三宅島の話．同上，2(9), 557-560.（み99）
66-14-04　土肥暁風：八丈島の女．文芸倶楽部，20(5), p.　は143
66-14-05　薄・青木他：八丈島．国文館，p.　（は12）
66-26-01e 小寺融吉：八丈島の話．民族，2(6), 1131-1133.　は161
66-26-02c 本山桂川：三宅島から．海島風趣，坂本書店，32-47.（み9，か18）
66-26-03c 本山桂川：三宅島の唄．同上，坂本書店，48-53.（か18）
66-26-04c 本山桂川：八丈島昔話．同上，坂本書店，54-88.（は27）
66-26-05c 本山桂川：八丈島民謡．同上，坂本書店，89-95.（か18）
66-26-06s 小笠原梅吉：八丈島のロマンス．三土社，p.（は52）
66-27-01e 今　和次郎：八丈島のおくらと家．日本の民家増訂版（334p), 岡書院，166-171.
66-27-02　藤木喜久麿：八丈島の凧．郊外，8(3), p.　は156
66-28-01s 藤木喜久麿：三宅嶋の民謡．同上，9(1), 40-47.（み57）
66-28-02e 藤木喜久麿：三宅島御鞠の神事．民族，3(2), 339-347.（み75）
66-28-03e 藤木喜久麿：三宅島の忌の日．同上，3(2), 347-348.（み44）
66-28-04e 藤木喜久麿：三宅島の若者組合と女組合．同上，3(6), 1171-1172.　み37

第4図　南部伊豆諸島の民俗・生活・回顧録（66）のリストの一部．本誌98頁における1912年から1928年の文献・雑録を示す．人文・社会関係では未確認文献が多い．

三宅島を含む南部伊豆諸島の噴火他（51）でも，2002年に39件の多さである．その南部伊豆諸島では，民俗他（66），歴史（63）等の人文・社会関係が多いのも大きな特色となっている．

第1表の分野別の全地域合計収録数において，50以下は海岸・砂丘，地下資源・石材の2分野だけである．北部伊豆諸島と南部伊豆諸島の両分野とも4以下と極めて少ないのに対し，新島村では2桁以上と多い．これは伊豆諸島の多くの島々が玄武岩質の複成火山からなるのに対し，新島村が流紋岩質の単成火山から主になり，石英砂や軽石の抗火石を産出するためである．

1982年以前における人文・社会関係の文献・雑録の収集に際しては，鈴木（1981, 1982）を主に参考にした．文献末尾に記載された平仮名と数字は，鈴木氏による文献・雑録の整理番号であり，括弧付は所持，無しは非所持を表わす．民俗他（66）の一部を第4図に示すが，66-14-03c末尾の（み99）は所持で表題最初の平仮名読みが「み」の99番目，66-26-01e末尾の「は161」は非所持で平仮名読みが「は」の161番目の文献・雑録ということになる．

3. ホームページ上での閲覧

宮城の私有webページ：http://homepage.mac.com/miyagi_iso14001/iiDB/に，本誌関係の文献ページが最近掲載された．まえがき，説明，新島村，北部伊豆諸島，南部伊豆諸島，伊豆諸島・小笠原諸島，あとがきの順に閲覧できる．さらに全文がPDFファイル化されており，ダウンロードが可能である．本誌に関心を持たれた読者は，上述のホームページにアクセスされることをお勧めする．

4. おわりに

伊豆諸島・小笠原諸島及びその周辺海域に係わる文献・雑録数はわが国の社会経済の発展に伴って増加し，とくに自然科学関係で著しい．自然科学の収録数は約4,000件，人文・社会関係のそれも2,600件以上に達する．本誌が両諸島に関する文献・雑録の検索・利用の手助けとなれば幸いである．なお，新島村のみ個別に編集されているが，各町村（島）ごとに編集・活用されることを希望する．

既に述べたとおり，文献・雑録数はこれからも増え続け，本誌収録の文献数も不十分である．今後本誌を基礎にして，さらに充実した文献目録が編集・出版されることを切望する．

文　献

磯部一洋（1998）：北部伊豆諸島にある新島村博物館．地質ニュース，529, 60-63.
鈴木光志（1981）：神津島集誌III　伊豆諸島の文献・雑録．53P.
鈴木光志（1982）：神津島集誌IV　続・伊豆諸島の文献・雑録．53P.
須藤定久・有田正史・磯部一洋・北村　武（2003）：新島博物館で砂展を開催－産業技術研究所と地方博物館の連携モデルの提唱－．地質ニュース，582, 36-38.

ISOBE Ichiyo and MIYAGI Isoji (2006)：Publication of a regional reference catalogue due to research cooperation for the Niijima Museum.

＜受付：2006年6月6日＞